

大田区立図書館選書基準

・ 選書にあたっての基本方針	1
・ 共通基準	2
・ 総記（0 類）	4
・ 哲学（1 類）	5
・ 歴史（2 類）	6
・ 社会科学（3 類）	7
・ 自然科学（4 類）	9
・ 技術（5 類）	11
・ 産業（6 類）	12
・ 芸術（7 類）	13
・ 言語（8 類）	15
・ 文学（9 類）	17
・ 参考資料	19
・ 地域資料（郷土資料）	21
・ ヤングアダルト（Y・A）資料	25
・ 漫画資料	26
・ 選書の方法	27
・ 選書のための資料（選書ツール）	28
・ 選書のための資料（こんな時は？）	29

大田区立図書館選書基準	選書にあたっての基本方針	1
-------------	--------------	---

- 1 東京都大田区立図書館図書館資料収集方針（昭和 59 年 1 月施行）に基づき資料の選択、収集を行う。
- 2 区立図書館としての機能を十分に発揮させるため、全分野にわたり基礎的、入門的なものから専門的なものまで段階的に連続するように収集する。
ただし、高度に専門的なものに関しては、都立中央図書館、国会図書館等の相互貸借を活用することとし、資料の収集は行わない。また、区立図書館として収集すべき資料で、長期保存が必要なもの及び資料的価値の高いものについては、全館で分担して収集する。
- 3 資料の収集にあたっては、利用者の要求に基づくことを原則とする。利用者の要求の中には潜在する要求、将来予測される要求も当然含まれる。
- 4 すべての分野において「今」に対応する新鮮な資料を豊富に収集する。
- 5 評価の定まっていない編著者、出版者のものでも素材に客観的裏付けがあり、資料として役立つものは収集する。
- 6 多様な、対立する意見のある問題については、それぞれの観点に立つ資料を幅広く収集する。
- 7 著者の思想的、宗教的、党派的立場にとらわれて、その著作を排除することはしない。
- 8 図書館員の個人的な関心や好みによって選択、収集を行わない。
- 9 個人、組織、団体からの圧力や干渉によって収集の自由を放棄したり紛糾をおそれて自己規制しない。
- 10 図書館の収集した資料がどのような思想や主張をもっているとしても、それを図書館または図書館員が支持することを意味しない。

大田区立図書館選書基準	共通基準（1）	2
-------------	---------	---

1 参考資料

知識の全分野にわたり、辞典、事典、年鑑、便覧等レファレンス（参考業務）に必要な資料を選択、収集する。詳細は別に定める。

2 入門書・概説書

全分野にわたって、基本的な資料は漏れのないように収集する。
利用の多い分野については類書も可能な限り数多く揃える。

3 専門書

利用要求を考慮して、ある程度専門的な資料も収集する。しかし購入予算と収蔵能力が限られている中で、すべての資料を収集することは困難である。

利用が限定される高度な専門書で、専門家、研究者が利用するような学術研究書・技術書等については収集の対象外とし、都立中央図書館や国立国会図書館、専門図書館にゆだねる。

4 性

人間性の尊厳を損なう恐れのある資料については、収集の対象外とする。

5 全集

新たに全集を購入する場合は原則として区内1セットとする。個人全集については同一著者のものは収録作品の違い等を検討し、厳選して収集する。

全集を選択する際には、収録範囲、解説、年譜、索引、参考文献等を評価の判断材料とする。

6 地域資料

大田区関係資料については網羅的に収集する。詳細は別に定める。

7 分担収集資料

大学教養課程程度を目安として、全分野を網羅した収集とする。詳細は別に定める。

8 雑誌の臨時増刊号・別冊

雑誌の臨時増刊号・別冊で、図書として受入した方がよいと思われる資料は図書として収集する。

例：別冊ジュリスト、別冊太陽、別冊暮らしの手帖

大田区立図書館選書基準	共通基準（2）	3
-------------	---------	---

9 予約・リクエスト

原則として予約 5 件に 1 冊の複本を購入し、利用者を必要以上に待たせないよう配慮するが、複本数は最大 1 館あたり 1 タイトル 2 冊までとする。

リクエストについては、別に定める未所蔵資料購入提供基準を参考にして受け付ける。

10 形態

製本のしっかりした資料を選ぶ。

書き込み式、切り取り式など個人利用を目的とする特殊な形態の資料は収集しない。

12 改題書・新装版

原則として収集しない。

13 改訂版・増補版

重要な改訂、増補と思われるときは必ず収集する。

発行間隔が非常に短く、内容がほとんど変更していない場合は収集しない。

14 ダイジェスト

原本があるときは収集しない。

15 豆本・ミニサイズ文庫

原則として収集しない。

16 大活字本

高齢化社会を迎え、今後の利用が見込まれるため積極的に収集する。

17 学習参考書・問題集

原則として収集しない。

大田区立図書館選書基準	総記（0類）	4
-------------	--------	---

I 総記の概要

この部門は総記という性質上、各分野の量的、内容的なバランスを考える必要はなく、利用が見込まれる分野を重点的に収集する。

また、内容上最新性を要求される分野と、蓄積された資料を要求される分野があり、保存、除籍に考慮しながら選書をする必要がある。

II 選書基準

【情報科学（007）】

最新の知識を要求され、変動が激しい分野でもあるので、入門書、概説書を中心に最新のものを収集する。

コンピュータの個別機種の操作マニュアルも偏らないように収集する。

【図書館（010）】

図書館に関する資料は、図書館以外の機関ではほとんど収集されていないことを考慮し、図書館運営及び図書館サービスに必要な資料を積極的に収集する。

大田区立図書館選書基準	哲学（1類）	5
-------------	--------	---

I 哲学の概要

この分野は、古典的著作を中心に基本書を体系的に収集する共に、入門書も揃えるようにする。

II 選書基準

【哲学（100）】

代表的な哲学者の著作を中心に、入門書、概説書、解説書を収集する。

【超心理学・心霊研究・易・占い（147・148）】

話題となっている資料は排除することなく収集するが、考証的に取扱われている資料を中心に収集するよう心がける。

命名に関する資料は利用が多く見込まれるので複数揃える。

【人生訓・教訓（159）】

多数の資料が出版されている。特定の著者に偏らないように収集する。

【宗教（160）】

宗教については特定の宗派に偏らないよう十分留意し、原典、宗教史、入門書、研究書を揃える。代表的な教派（宗派・会派）のものは偏りなく収集する。また宗教、宗派による差別はしない。

大田区立図書館選書基準	歴史（2類）	6
-------------	--------	---

I 歴史の概要

特定史観に偏らないよう、各史観のものを揃える。
通史の世界史、日本史は複数揃えるようにする。

II 選書基準

【地方史（219）】

大田区、東京都のものはできる限り収集し、郷土資料とする。（地域資料参照）

【各国史（220～279）】

各国史はなるべく多くの国について収集にする。出版点数の少ない国の資料は見落としのないように注意する。特にアジア地域は積極的に収集する。

【伝記（280）】

内外の各分野における代表的な人物の叢伝、各伝を収集する。

企業PRとなる経営者言語録、自伝等は収集しない。ただし、企業の歴史を記録したもの（社史）は収集する。

【地理・地誌（290）】

地理・地誌の概説書は、出版点数が少ないため積極的に収集する。

【地図】

① 一般の地図帳

世界及び日本の地図帳は、内容が新しく定評のあるものを収集する。

② 市街図

東京都とその周辺を中心に収集し、更新にも配慮する。

③ 住宅地図（B4タイプ）

- i 大田区については全館で改訂の都度（年1回）購入する。
- ii 全館的に3年ごとに購入計画をたて、改訂の都度（年1回）購入する。東京23区、城南5区、三多摩等、年度毎に指定館が購入地域を持ち回りで購入する。
- iii 川崎市、横浜市についても全区分を購入計画に従って、指定館の持ち回りとして、改訂の都度（年1回）購入する。

【旅行ガイド・ドライブマップ】

旅行ガイドは国内・国外とも複数用意する。

内容が実態と異なってくるため、最新の資料を収集するようにする。

大田区立図書館選書基準	社会科学（3類）（1）	7
-------------	-------------	---

I 社会科学の概要

社会科学に関する資料は出版点数が多いので、信頼度の高い出版社のものを収集する。
また、今日的主題を持ち時代と深く結びついている資料を収集する。

II 選書基準

【政治（310）】

政治思想の古典とされているものは基本的に揃える。
特定の党派、著者に偏らないように公平な観点から幅広く収集する。

【法律（320）】

各分野の基本書を体系的に収集する。主要な叢書は揃えるようにする。
法令集、判例集のほか法律相談などの実用的な資料も多く収集する。
法律の改正に伴う重要な改訂、増補があったものは収集するようにする。

【経済・財政（330・340）】

経済学の古典は基本的なものを収集しておくようにする。
社会生活に密着し関心を集める分野なので、時事性のある入門書、概説書を幅広く収集し
新鮮な資料を揃えるようにする。

【統計（350）】

信頼度に定評のあるものを継続的に収集する。

【同和問題（361.8）】

多様な観点から公正に収集する。

【労働問題（366）】

職業案内や資格取得に役立つ資料を幅広く収集する。
ただし資格取得に関する資料は、問題集を除く基礎的なものを中心に収集する。

【社会福祉（369）】

高齢者問題等の分野は今後一層重要なテーマとなるので、今日的な内容の資料を積極的に
収集する。

大田区立図書館選書基準	社会科学（3類）（2）	8
-------------	-------------	---

【教育（370）】

教科書は原則として収集しない。

受験のための学習参考書、問題集は収集しない。

学校案内は最新のを収集するようにする。

【冠婚葬祭（385）】

実用的で新しい資料を目的別に複数揃えるようにする。

【国防・軍事（390）】

戦争を著しく賛美している資料は収集しない。

大田区立図書館選書基準	自然科学（４類）（１）	9
-------------	-------------	---

I 自然科学の概要

- 1 科学技術の進歩は著しく人々の関心も高いので、利用者の要求に応えるために最新の資料を揃える。
- 2 普遍的な真理を探究する学問分野でもあるので、基本的な資料を常備する。
- 3 科学読み物、写真集、科学を応用したゲームなどの資料は利用者が多く、科学に親しむ入口となるので多種多様なものを積極的に収集する。
- 3 科学的根拠が希薄な一般書も多いので注意して収集する。
- 4 科学分野の図書を出す出版社は比較的限られており、定評のある出版社の新刊情報には注意する。

最新のデータや情報をわかりやすく紹介した科学雑誌の記事などを、選書の際の参考とするとよい。

II 選書基準

【自然科学（４００）】

科学とは何か、科学の歴史現状、将来を考えるのに不可欠な資料であるので代表的なものを収集する。

科学の進歩によって考え方も変わるので、それに対応した資料を収集する。

自然科学全般にわたり事典類は基礎的資料として必ず収集する。

【数学（４１０）・物理学（４２０）・化学（４３０）】

数学や物理学の範囲は幅広いので、偏りなく収集する。

専門的なものよりは、一般向けで基礎的な入門書や概説書を中心に選書する。

化学も数学や物理学と同様な選書方針でよいが、実験の図書も広く揃える。

この分野は、内容があまり変化しないため買い替えを忘れがちになるので留意する。

【天文学（４４０）】

宇宙観測の進歩により、図書内容の変化が早い分野なので、最新のものを揃える。星座や星の写真集、天文観測などの分野の利用が多いが、天文計算などを含めて天文学全体が見渡せるような蔵書構成となるように収集する。

暦学については、学問的な記述のものを収集する。

【地球科学（４５０）】

気象学や地震学、鉱物学、地質学などの特定分野に偏らず収集する。恐竜などの古生物は利用も多く出版点数も多いが、他とのバランスを考えて収集する。

大田区立図書館選書基準	自然科学（４類）（２）	１０
-------------	-------------	----

【生物学（４６０）】

この分野はバイオテクノロジーも含み環境問題にも関連するので、入門書からある程度の専門書まで収集する。

【植物学（４７０）・動物学（４８０）】

植物図鑑、動物図鑑は初心者向け、中級者向け、専門的なものと各利用者層に見合ったものを揃える。

写真集に偏らないよう分類学、生態学まで網羅するよう収集する。

【医学（４９０）】

区立図書館では、医学の高度な専門書は必要ないので、基礎的な入門書や概説書を中心に特定の疾患についての資料に偏らないよう幅広く収集する。

進歩が極めて早い分野なので最新のものを揃える。

大変利用が多く、類書も数多く出版されているので所蔵状況を考えて選書する。

健康法、闘病記は科学的根拠や信憑性によく注意し、これに欠けるものは収集の対象としない。

大田区立図書館選書基準	技術（5類）	11
-------------	--------	----

I 技術の概要

科学技術は進歩が著しく、情報量は飛躍的に増加している。最近の動向に遅れないように最新のを収集するようにする。

II 選書基準

【技術・工学（500）】

中小製造業の多い大田区の特徴を考え、積極的に収集する。

【都市工学（518）・環境工学（519）】

近年関心が高い都市問題・環境問題を重視して収集する。

【建築学（520）】

住宅建築や室内装飾の新しい資料を収集する。写真・図版付きのものを多く収集する。

【機械工学（530）】

自動車の構造やメンテナンスに関する資料は積極的に収集する。

原子力開発は対立する意見のある分野だが、多様な観点のものを揃えるようにする。

【電気工学（540）】

コンピュータに関する資料は出版点数が急増している。蔵書の更新に心がけ最新のものを揃えるようにする。特定機種、メーカーに偏らないようにしながら利用の多いものを揃える。

【家政学・生活科学（590）】

手芸、料理、育児などの利用の多い分野である。実用書、概説書、シリーズものなど各種を積極的に揃え、できる限り豊富に収集する。カラー図版を多用するなど、すぐに役立つものを多く揃え流行にも注意し絶えず更新するよう努める。

大田区立図書館選書基準	産業（6類）	12
-------------	--------	----

I 産業の概要

趣味に役立つ資料（園芸・ペットの飼い方・鉄道等）は出版点数も多く利用頻度も高いので収集に努める。

II 選書基準

【産業（600）】

産業社会の新しい動向について書かれた資料は収集する。

【農業（610）】

技術的・専門書は除く。ただし農業問題・食糧問題については収集する。

【園芸（620）】

園芸については、多種多様な植物の栽培法の資料を収集する。

【畜産業（640）】

ペットの飼育が主となる。ペットに関する資料はわかりやすく書かれた資料を収集する。一般的でないペットについても幅広く収集する。

【林業（650）・水産業（660）】

技術書・専門書を除く。ただし森林保護に関する資料、観賞魚に関する資料は収集する。

【商業（670）】

実務に役立つ実地的な資料、話題性のある資料を収集する。貿易については入門書・概説書を収集する。個人輸入に関する資料にも留意する。

【運輸・交通・観光（680）】

航空に関する資料は、区内に羽田空港を擁しているので積極的に収集する。旅館・ホテル等の案内は最新の資料を収集する。

【通信工学（690）】

新しい通信システムについての資料は時代に遅れず収集する。

大田区立図書館選書基準	芸術（7類）（1）	13
-------------	-----------	----

I 芸術の概要

この分野は、芸術、音楽、演劇、スポーツ、諸芸・娯楽などの趣味や余暇活動に直接結びつくものである。こうした活動の手助けになる資料を幅広く収集するように心がける。

II 選書基準

【芸術・美術（700）】

- ① 芸術・美術については、芸術家の作品集と伝記、基礎的な鑑賞入門および技法書（実技指導書）を中心に収集する。
- ② 技法書はそれぞれの分野について少なくとも入門書は揃えておく。さらに、日本画・洋画の絵画技法、デッサン、書道、版画、写真撮影、陶芸など利用の多い分野は、初歩からある程度高度なものまで豊富に収集する。
- ③ 年賀状やクリスマスカードの作り方などは、時期に見合うように揃える。
- ④ 美術全集、画集、写真集などの作品集は以下の点に留意する。
 - i 製本がしっかりしたもの、印刷の仕上がりがよいものを収集する。
 - ii 収録作品および解説、年譜等の充実したものを収集する。
 - iii 高額な美術全集は区内1セットを原則とする。
- ⑤ 図書としてより美術品としての価値を重視した資料（例：署名入、限定通し番号入など）は原則として収集しない。

【漫画（726）】

漫画資料の頁参照

【グラフィックデザイン・図案（727）】

イラスト集、カット集は需要が多いため、常に不足、破損に注意して買い替え等に努める。

【写真集（748）】

アイドルタレントの写真集は、原則として収集しない。

【音楽（760）・演劇（770）】

西洋音楽に偏らず、邦楽、民族音楽などにも留意して収集する。

音楽演奏用の教則本（例：バイエルなど）、楽譜は原則として収集しない。ただし製本された楽譜や各種楽器演奏方法の資料は収集する。

歌手、芸能人などのいわゆるタレント本については、タレントであることを理由に排除

はしない。

小中高生向き演劇脚本集は類書が少ないので、努めて収集する。

大田区立図書館選書基準	芸術（7類）（2）	14
-------------	-----------	----

【スポーツ（780）】

スポーツの技術解説書は、図版や写真の優れたもの、記述がわかりやすいものを全種目にわたって収集する。新しいスポーツや流行のスポーツなどを的確に把握し、利用者の要求に応えられる収集を心がける。

スポーツのルール集は、改正のつど、新しいものに更新するように努める。

ウィンタースポーツや水上スポーツ関係の資料は季節的に多くの利用が見込まれるので、買い替え、補充等を心がける。

【登山・ハイキング（786）】

登山のガイドブックの中には、改訂版と表示されていないながら、内容がほとんど変わっていないものもあるので、注意する。

【茶道（791）・華道（793）】

主要流派の入門書は収集する（茶道：表千家、裏千家など・華道：池坊、小原、草月など）。毎年改訂されるような性格の資料ではないので、装丁・内容のしっかりしたものを収集する。

新しく流行しているもの（例：フラワーアレンジメントなど）も積極的に受け入れる。

【囲碁（795）・将棋（796）】

利用頻度も高いため、破損・汚損が多いので、資料の更新に心がける。

大田区立図書館選書基準	言語（８類）（１）	15
-------------	-----------	----

I 言語の概要

- 1 言語学・日本語及び諸外国語に関する概説書・辞典・実用書・語学学習用入門書を中心として収集する。
- 2 辞典はこの分野の不可欠かつ重要な資料であり、和○辞典・○和辞典等、漏れのないよう収集し、新版・改訂版等に注意し更新に努める。
- 3 利用者の関心の高い言語の資料が収集の中心となるが、少数言語についても配慮し過不足のないよう収集する。
- 4 要求が多い言語の辞典は貸出用複本を考慮する。
- 5 語学学習用テキスト等で、冊子本体と不可分であるCDやCD-ROM等の付属資料がある場合は著作権法に留意して選定する。

II 選書基準

【言語学（８００）】

言語学研究、言葉に関する基本的な資料は体系的に収集する。

【話し方・会議法（８０９）】

実用的な資料を中心に幅広く収集する。

【日本語（８１０）】

多種多様な辞典（類語・古語・反対語など）をもれなく収集する。

日本語論に関する資料は関心が高く利用もあるため、幅広く収集する。

日本語学習者のためのテキストや日本語教授法も収集する。

【挨拶・文章読本・手紙（８１６・８１７）】

例文集や用語集などの実用書は需要が多いため一定以上の量を確保する。

【中国語～東洋の諸言語（８２０）】

アジアの諸言語の辞典や学習書は豊富に収集する。

基本的資料や実用的なものまで広く役立つ資料を収集する。

【英語（８３０）】

最も広く学ばれており、対象も学生・ビジネスマン・海外赴任家族など様々なため、概説書や辞典・入門書や実用書などの多種多様な要求に応えられるよう幅広く収集する。

英検・TOEFLなどの語学試験のテキストも汎用に利用できる資料を一定程度収集す

る。

大田区立図書館選書基準

言語（8類）（2）

16

【その他の言語（840～899）】

辞典・会話・文法書などを中心に基本的資料や実用的なものまで収集する。

大田区立図書館選書基準	文学（9類）（1）	17
-------------	-----------	----

I 文学の概要

- 1 日本及び外国の古典文学から現代文学まで収集する。
- 2 古典文学は代表的な物語、日記、歌集等はもれなく収集する。
- 3 古典文学の口語訳、注釈書は訳者によって解釈が異なるため複数収集する。
- 4 古典文学の解説書は、評価の高いものを収集する。
- 5 文学賞受賞作品は一定の評価を受けた作品であるため収集する。

II 選書基準

【文学理論（901）】

文学理論については、入門書・概説書を収集する。

【全集（908）】

スタンダードな全集の他に、テーマを絞った全集も収集する。

【児童文学研究（909）】

児童書に関する研究書は図書館員も含めて関心の高い分野であり、職員の研修用としても必要なため充実を図る。

【日本文学（910）】

作家・作品研究書は、知名度の高い作家・作品に限らず収集する。

【詩歌（911）】

各時代を代表する詩歌集は収集する。

短歌・俳句の作り方等の実用書、歳時記は利用が多いので収集する。

現代の詩・短歌・俳句は、話題になったものは収集する。

【戯曲（912）】

伝統的な戯曲資料に加えて、利用の動向を考慮しテレビ、映画のシナリオも収集する。

【小説（913）】

現代小説は、特に利用の多い分野なので、新聞広告、書評、出版界のニュース等に注意して利用者の要求に対応する。

また利用頻度も高い分野なので、汚損・破損したものは随時買い換える。

（単行本での提供ができない場合は文庫版・新書版での購入も可とする。）

大田区立図書館選書基準	文学（9類）（2）	18
-------------	-----------	----

【記録文学（916）】

記録文学は事実に対する視点が明確で、著者による調査が行き届いたものを選択する。

【外国文学（920～990）】

外国文学は英米文学に偏らないよう収集する。

外国文学で、定評のあるものは、複数の翻訳者の作品を収集する。

I 参考資料とは

参考資料は図書館のレファレンスサービスを効果的に行うための重要な資料であり、利用者が直接利用するだけでなく、図書館員が日常業務上頻繁に使用するものである。

参考資料には、以下のようなものがある。

1 事実解説的なもの

- ① 辞書（用語解説、詩歌索引などを含む）
- ② 百科事典
- ③ 専門事典
- ④ 便覧（ハンドブック、必携、ガイドブック、マニュアル、データブック等）
- ⑤ 図鑑
- ⑥ 年表
- ⑦ 年鑑（白書、統計資料等を含む）
- ⑧ 地図帳
- ⑨ 地名事典
- ⑩ 人名辞典・名鑑（個人・団体）

2 案内指示的なもの

① 書誌

特定の主題や分野の資料を検索するために、多数の図書、論文、記事などから関連する資料を集め一定の体系順に資料の書名・著者名等の事項で編成した資料リスト。

目録と違い資料の所蔵の有無は問わない。

例：日本書籍総目録、世界名著大辞典など

② 目録

特定の書名、著者名などを検索するために資料の書誌的事項（図書の場合は、書名著者名、出版社名、出版年など）を体系的に編成した資料リスト。資料の所在（所蔵）が明らかであることが特徴。

例：国立国会図書館蔵書目録 国書総目録など

③ 索引

図書や雑誌、その他の資料の内容を検索するために、内容を表す索引語やその他の記号を規則的に配列し、該当する情報の所在指示を記載したリスト。

冊子体からCD-ROM版に替わりつつある。

大田区立図書館選書基準	参考資料（2）	20
-------------	---------	----

II 参考資料の選択

参考資料の価格は一般図書のそれをかなり上回るので選択については慎重でなければならない。しかし、参考資料にはどれもそれなりの特徴があるので、原則として、予算の許す限り多くの種類のものを収集すべきである。

また、百科事典、国語辞典など利用頻度の高い資料は、内容を比較検討できるように数種類所蔵する必要がある。

検討すべき一般的な留意事項には以下のようなものがある。総合的に判断して選択する。

1 内容の正確さ

参考文献や引用データを備えた最新の正確な情報が載っていることが望ましいが、正確さの判定は、長期的視野で判断しなければならない。さしあたっては、編著者、出版社などの知名度で判断したり、改訂増補を繰り返しているものを優先して選択する。

2 内容の範囲と編集方針

所蔵参考資料がカバーしていない内容範囲の資料は優先的に選択する。項目が網羅的であるか、重点的であるか、解説の分量が多いか、少ないかも判断の材料となる。

3 検索の便利さ

項目の配列体系がわかりやすく、見出し項目が探しやすいことが重要である。目次や索引の有無とその構成、本文・索引を含めての参照の有無なども判断の材料となる。

4 記事の読みやすさ

項目の記事や文章が分かりやすく書かれているかどうか、必要な図版や表が入っているかどうか、又、文章と図版などとの結びつきも重要である。

5 造本と印刷

1年ごとに更新されるものは別として、参考資料は利用頻度が高く長期間利用するので質の良い造本と印刷が必要である。活字の大きさや鮮明度も重要で、なるべく活字の大きな版を選択すべきである。図版を中心とする資料はその大きさや鮮明度も重要である。

大田区立図書館選書基準	地域資料（郷土資料）（1）	21
-------------	---------------	----

I 地域資料収集の目的及び意義

地域の歴史的資料は、利用者である住民が地域に関する歴史を知ることにより、過去の出来事や考え方を理解するために必要であり、地域の現在を知る資料は、適確な状況把握や自主的な判断をするために重要な価値をもつ。また、現在の地域資料の収集は「数十年後の貴重な歴史的資料」の収集を意味している。

地域資料は例えば私家版や行政資料等、入手できる期間、場所、方法等に制約があり、一般には入手困難な場合が多い。それらの資料は国会図書館にも納本されない場合が多々ある。

該当地域の図書館が目配りをし、責任を持って積極的に収集しなければ集積されない地域図書館の根幹とも言える資料である。

地域資料は寄贈される行政資料を保存し並べるだけになりがちであるが、寄贈に漏れがないか当該部署に確認し、必要ではあるが寄贈されない行政資料が無いかを調査するなど、能動的に収集する姿勢が重要である。

大田区関係資料については選択より収集に力を入れる。タウン誌や新聞の地方版などを利用して行政資料以外の出版物（地方小出版・自費出版等）の存在にも目配りをして収集する。これらを収集することは、資料群としての奥行きを持たせるだけではない。現在の地域情報を行政資料だけに頼ると行政機関と対立し利害が関係する問題や、その恐れのある問題などの情報に偏りが生じる危険もある。住民の知る権利を保障するためには資料提供に不足がないようにしなければならない。

区立図書館としては、多くの資料から基礎的なデータ、都民（区民）に関連の深い資料を選択して収集する。特に大田区に関する統計資料等については、全館で調整して、必ず1館は継続して収集するように努める。

地域資料を除籍する場合は、継続して収集している館の欠巻の有無等を調査し、必要な場合は移管するなどして大田区立図書館として完成された資料群を形成するように努める。

また、自館が所在する地域に関する資料については、特に注意して収集し永久保存する。

東京都関係資料については、都立中央図書館東京資料係が責任を持って収集保存するので、その収集状況と自館の書架の収納能力を考慮して、大田区立図書館全体で収集の可否を判断する。大田区関係資料と東京都関係資料では、保存年限を分けて考える。

II 収集の範囲

1 地域的な範囲

- ① 大田区関係資料については現在の行政区域における大田区全域、及び必要に応じて歴史的経緯のある関連区域（荏原郡、川崎など）も対象とする。多摩川関係については大田区資料として取り扱う。
- ② 東京都関係資料については、現在の行政地域で東京都に属する地域を収集する。

江戸学も「江戸東京事典」などは東京都関係資料として取り扱う。

2 地域資料の範囲

- ① 一般資料
- ② 行政資料
- ③ 逐次刊行物（タウン誌、地方紙など）
- ④ 古文書
- ⑤ 地図・絵図（古地図・古絵図）
- ⑥ 写真
- ⑦ 視聴覚資料
- ⑧ 現代区民資料（パンフレット類）
- ⑨ その他

一般的には上記のものが挙げられるが、このうち③④⑤⑥⑨の中で文献として流通される形態をとっていない資料の場合は、以前は区史編纂室の収集対象であったが、編纂事業終了後の現在は、おおむね大田区郷土博物館での収集保存対象となっている。

3 収集する主題の範囲

- ① 地域に関するあらゆる主題を取り扱う
- ② 大田区出身もしくは、主な活動の場が大田区の文筆家及び芸術家などの著作

Ⅲ 収集にあたっての留意点

1 一般資料（図書）

- ① 部分的であっても大田区（東京都関係資料の場合は、東京都）に関するテーマが掲載されている資料は収集する。

例：「昭和の風景 蒲田・羽田界限と京浜電車」石川利夫著 国際書院刊

- ② 大田区在住の個人の著作は、内容が大田区に関係していなくても収集する。

「馬込文士村」に属する作家のように、著作が没後時間が経過し古書としてしか入手できない場合は古書も収集範囲として揃える。著作でなくても個人を知る上で必要な関連資料は収集する。この場合も著作と同様、古書も収集範囲とする。

- ③ 大田区内に所在する会社や学校などの社史や沿革史は収集する。（交通機関の場合は大田区内の交通機関であれば、会社の所在地が大田区でなくともよい。）

例：「東京急行電鉄 50 年史」「蒲田百年 創立百周年記念誌」大田区立蒲田小学校編

- ④ 大田区内を主な舞台とした文学作品は収集する。

例：「羽田浦地図」小関智弘著 「レディジョーカー」高村薫著

- ⑤ 大田区在住の著名な人物（年代を問わない）、大田区に在住した及び存在する事物（生物を含む）の関連資料は関係が深い地域の館が収集する。その場合、古書でしか入手

できない場合は古書も収集の範囲とする。

例：「勝海舟資料」洗足池コレクション

- ⑥ 大田区、東京都の地域案内については歴史地誌は別として、最新のものを提供できるようにする。

2 行政資料

- ① 大田区の行政機関の発行する資料は収集する。冊子体になっていないものも必要に応じて加工編集して提供する。
- ② 大田区内にある都、国の機関についてはその所在案内などの資料を収集し、参考調査に役立てる。
- ③ 東京都の行政機関の発行する資料は、都立図書館が責任をもって収集するので、大田区では基礎的な数値データを中心に、区民にとって関連があるとか関心が高いなどの観点で選択したうえで収集する。

3 逐次刊行物（タウン誌、地方紙など）

- ① タウン誌、地方紙、同人誌、ミニコミ誌などは地域の歴史や文化状況がわかるので積極的に収集する。
例：「おとなりさん」
- ② 大田区、東京都に関連する雑誌を収集する。企業のPR誌もその中に含まれるものとする。
例：「東京人」
逐次刊行物について郷土資料として保存する場合は図書として受け入れる。

4 古文書

生原稿の段階のものは郷土博物館資料。古文書集のように冊子に編纂された資料を収集する。

例：「大田区史 平川家文書」

5 地図・絵図

「大田区遺跡地図」など冊子体になっていないものは加工して提供する。大田区と東京都の地図は最新のもの揃える。ただし、住宅地図などは古いものが貴重な資料となり、年代ごとに地域の変遷がたどれるように、新版がでてでも区内で1冊だけは必ず保存する。

市販の1枚物で大田区に関連する古地図は貴重である。これを収集できる機会があれば古書の範囲を含め各種収集すべきである。しかし収集の後は、検索、閲覧できる状態で保存しなければならない。また1枚物の地図等は館内利用を原則とする。

大田区立図書館選書基準	地域資料（郷土資料）（4）	24
-------------	---------------	----

6 写真

市販の大田区内の風景などを写した写真集は必ず収集する。図書館が独自で近隣風景の定点観測写真などを作成して資料とする方法もある。

7 視聴覚資料

劣化等保存に注意する。

8 現代区民資料（パンフレット類）

逐次刊行物にもなるが、水道や電気などの公営企業のパンフレット、商店のチラシ、不動産広告等今を知りまた後にはその時点での物価などを知る資料は、テーマ別パンフレットボックス収納などの提供方法、保存方法を考えて出来る限り収集する。

9 その他

大田区地域を調査研究している郷土史の研究者などと協力して、地域の歴史関係資料を図書館で作成することも考慮する。

例：「わが住む町わが故郷 その昔を語る集い第1回記録」大田区立大森南図書館編
「十五分散歩 総集編」大田区立下丸子図書館編

大田区の電話帳は継続して保存すると貴重な資料となるが、収容能力を考慮して今後の課題とする。

I 対象

大人と子供の間位置する青年層、一般にティーンエイジャーと呼ばれる概ね 12 歳から 18 歳までの利用者のために選択する。

II 利用者の特性

自分では子供と思っていないが、社会では成人と見なされていない。

心理学的に見ると、感情的、社会的、知的に成熟しつつある時期であり、自覚及び自立に向かい、倫理意識あるいは生きていくための哲学を身につけていく時期である。自分の職業を考える時期でもある。

関心領域は成人のそれに匹敵するほど広範囲である。

社会の変化に最も敏感に反応し、流行も好みも急激に変化する。

年齢や個人による読書能力に格差があり、年下の年代向けの資料には手を出さない傾向が強い。従って利用する資料の多くは成人向け資料である。

大半が生徒として学習に追われており、そのための資料情報の要求は激しく、緊急度が高い。また趣味娯楽のための資料の必要度も高い。

同じ環境に置かれた集団であるため、同一時期に特定の資料に利用が集中する傾向がある。活字文化だけでなく様々なメディアにより育っている世代である。

III 資料

ヤングアダルトにしか利用されない資料はそう多くない。流通上の 1 ジャンルとしてのヤングアダルト資料は存在するが（例：コバルト文庫、講談社 X 文庫等）、ヤングアダルトの興味と要求は広範囲にわたるため、一般書を中心にヤングアダルトの特性に留意しながら、それぞれの図書館の利用者に合わせて資料を選択する。

一般資料の基準を適用しながら、幅広いジャンルから若者に感心の高い、学習や生活・娯楽のための資料を収集する。ムックや文庫本、ノベルスのような手軽な本も選択する。

ただし読書能力に大きく差があるため、さまざまなレベルの資料を揃えること。内容だけでなく装丁・形態にも注意を払い、ヤングアダルトに好まれるものを選択する。

大田区立図書館選書基準	漫画資料	26
-------------	------	----

I 漫画資料

漫画資料には大別するとストーリー漫画を含むコミックスと漫画という表現特性を活かした資料としての実用漫画がある。原則としてストーリー漫画を含むコミックスの漫画資料は積極的に収集しない。日本の漫画の歴史は古く、単行本の出版は明治 40 年に遡る。以後、ビジュアルで廉価であり手軽で親しみやすい娯楽として受入れられ、現代においてはひとつの大衆文化として評価されており、映像資料とも違う独自の表現媒体として市民権を獲得している。

しかし、ストーリー漫画を含むコミックスは、月に数百点を超える膨大な出版量がありながら、発行後、数ヶ月で入手不能となる出版状況にあり、計画的購入や欠本等に対する対応が困難を極める。また、表現媒体の持つ特性に起因すると思われるが、いまだに確立された評価基準がないという問題を抱えている。そのうえ廉価であるために耐久性が低く、多数の利用には不向きである。数々の問題を抱えた表現媒体であり、積極的に大田区立図書館として選定・収集することは、現在のところ不可能である。

実用漫画についても、表現媒体として漫画表現に必然性があり、他に充ちた類書がない場合以外は積極的に収集対象としない。

ただし、漫画を利用者の多種多様な資料要求のひとつとして図書館資料に加えざるを得ない場合は、以下の点に留意して厳選する。

- ・評価が定まっており、幅広い世代の利用が見込まれる資料。
- ・表現における技術・描写などが高い水準であること。
- ・扱うテーマ等により書籍では表現不可能であり、一時代を活写していると判断できる資料。
- ・堅牢な製本であること。

大田区立図書館選書基準	選書の方法	27
-------------	-------	----

1 『週刊新刊全点案内』による選定

TRC（図書館流通センター）の『週刊新刊全点案内』による新刊書のデータの中から選ぶ。

2 目録・書評による選定

様々な書誌、出版社のパンフレット、書評などを検討して選ぶ。

3 出張選定

取次などの店頭（トーハン・丸善等）で選ぶ。

4 売り込み

出版社などが直接図書館に持ち込んで来るものから選ぶ。

5 寄贈

利用者や著者、各種団体などが寄贈してくるものから選ぶ。

大田区立図書館選書基準	選書のための資料（選書ツール）（1）	28
-------------	--------------------	----

1 出版社の目録、パンフレット

出版社の目録は様々な形態で数多く発行されている。最近の目録を整備しておくようにする。

また、分野別に多くの出版社の資料を収載した目録もある。

「人文図書総目録」「歴史図書総目録」「ヤングアダルト図書総目録」
「文庫総目録」等

2 出版社のPR誌

「学燈」丸善「青春と読書」集英社「春秋」春秋社「書齋の窓」有斐閣
「ちくま」筑摩書房「図書」岩波書店「波」新潮社「本」講談社
「みすず」みすず書房等

3 取次会社の情報

「週刊新刊全点案内」「今月のおすすめ」等

4 インターネットによる情報（オンライン書店等）

「b k 1」「Yahoo ブックス」「本やタウン」「紀伊国屋書店」等の書店ホームページ

5 出版社等の団体情報

「選定図書速報」「出版年鑑」「本の年鑑」「ロングセラー目録」

6 政府刊行物

「政府刊行物月報」「季刊 普及政府刊行物」

官公庁のホームページ等にアクセスして、インターネットによる検索

7 書評

新聞・雑誌の読書欄等の書評。

多面的な選書をするためにも、書評・広告には出来る限り目を通すようにする。

インターネットを利用した「論座ネット」等書評リンク集

1 新刊を購入したいとき

週刊新刊全点案内

選定図書速報（シリーズもののチェックに便利）

新聞・雑誌の書評、広告

専門の書評誌（「ダ・ヴィンチ」「本の雑誌」など）

出版社から郵送されてくるパンフレット類

書店の棚を見る。平積みになっている本をチェックする。

インターネット検索

2 特定分野の資料を購入したいとき

本の年鑑

出版年鑑（出版ニュース社）

選定図書総目録（日本図書館協会）

出版社の目録

3 参考資料を購入したいとき

日本の参考図書

辞典・事典総合目録（出版ニュース社）

年鑑・白書全情報（日外アソシエーツ）

4 政府刊行物を購入したいとき

政府刊行物月報

「季刊普及 政府刊行物」

インターネット検索

5 買い替え購入したいとき

TooLi（図書館流通センターのインターネット物流情報）で検索

ロングセラー目録（書店新風会）

インターネットでオンライン書店を検索